

平成 17 年 10 月 5 日

NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク
加盟館および会員各位

NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク
理事長 山西良平

「自然系博物館における収蔵品データ整備に関する助成事業」説明会の開催について(案内)

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。当 NPO 法人の事業につきましては、種々ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当 NPO 法人では、国立科学博物館による「科学系博物館情報ネットワーク推進事業」の一環として、各館収蔵品情報のネットワーク化と検索システムの構築に関する事業推進の委嘱を受託する予定であります。この事業において、西日本を活動の拠点とする博物館、科学館等における収蔵品の利活用を促進するため、収蔵品情報の整備と電子化に関する助成事業を公募いたします。

助成によって整備された収蔵品情報は、各館のホームページや目録等での公開と同時に、「科学系博物館情報ネットワーク推進事業」にて設置するサーバーにて、全国および世界中から標本情報が検索できるよう国立科学博物館と協力して整備いたします。詳しい内容は別紙 1 をご覧下さい。自然系博物館における資料の高度利用を推進するために、各館からこぞって応募下さる様お願い申し上げます。

敬具

記

日時 平成 17 年 10 月 24 日 (月) 午前 11 時 ~ 12 時迄
場所 大阪市立自然史博物館 会議室

内容 科学系博物館情報ネットワーク事業の説明
国立科学博物館 情報・サービス課長 井上透
助成事業の実施に関する説明 (申請のポイント)
兵庫県立人と自然の博物館 三橋弘宗

以上

- ・説明会に参加を希望される方は、10/18 迄に以下にご連絡下さい。
- ・応募条件として、説明会に参加することを義務づけるものではありません。

【この件に関する紹介先】

兵庫県立人と自然の博物館 担当：三橋・秋山
E-mail:hiromune@hitohaku.jp
〒669-1544 三田市弥生が丘 6 丁目
tel.079-559-2001 fax.079-559-2007

【2005年度 プロポーザル方式による公募案件】
自然系博物館における収藏品データ整備に関する助成事業について

はじめに

博物館が保管する自然史資料は、分類学的な研究を推進するために欠かせない材料であると同時に、地域の自然誌を編纂する上で欠かせない情報でもあります。各地に博物館が設立され、ここ半世紀にわたって様々な自然史資料が蓄積されてきました。しかし、特定の分類群に関する標本について情報を収集しようとする、一部の博物館を除いては、現状では各博物館等に個別に電話等で問い合わせるしか方法がないと言えます。また、博物館によっては、標本のデータベースが構築されていないために、学芸員の世代交代によって、標本を確認することが困難な場合も予想されます。さらに、非常に有益な標本資料であっても、初学者や海外の研究者が全く情報にアクセスできない状態も少なくありません。

これらの課題を解決し、博物館が有する資料への利活用を促進するために、国立科学博物館では、科学系博物館情報ネットワーク推進事業（別紙2）として、国内の各館が有する標本情報を横断的に検索可能なデータベースシステム構築が予定されています。この事業内容に基づいて、特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワークが、中間支援組織として事業推進することを予定しております。

つきましては、当法人にて、データ整備に関する資金支援を目的とした委嘱事業を以下の内容のとおりプロポーザル方式によって実施いたします。関心のある博物館関係者の方は、こぞって応募頂くようお願いいたします。

申請の範囲

学術的に意義のあるテーマに基づいた自然史系の標本の整備とこれに対応するデータ整備を対象とします。整備するデータは、博物館等に収蔵された標本を対象とし、定められた様式（別紙3：様式については初年度に限り試行的に実施）で入力することを原則とします。文字データ以外にも標本の利活用を促進するための画像データ等も含まれます。また、既に目録等にて整備された資料の電子化も申請の対象として取り扱います。

（テーマの例） 県における両生爬虫類標本の整備、 ×氏高等植物コレクションの整備、
市立博物館における全収蔵コレクションの整備、 大学 研究室から寄贈された昆虫類タイプ
標本の整備、 博物館収蔵哺乳動物標本目録の電子化

応募資格：

西日本を活動の拠点とする自然科学系博物館および科学館の職員のうち、NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークの会員とします。ただし、博物館相当施設として、以下の条件が満たされているものとします。

- 1) 標本管理体制の整った収蔵庫を保有し、外部からの依頼を受けて標本の貸し出しが可能な施設であること
- 2) 専門的な教育を受けた学芸員か研究員が、原則 2 名以上配属されていること
- 3) 申請者が所属する博物館の設置目的として、「自然史資料の保管」および「自然史研究」が明言されていること
- 4) 申請者が所属する施設の所属長の許諾が得られていること（申請後の事後承諾も認めますが、許諾が得られない場合は採択を取り消します）

*大学教員、NGO、民間企業等に所属する研究者との連名で応募しても構いません。

助成金額（案）:

1 件あたり 200 万円以内とする

申請金額の算出根拠は、以下にある「申請フォーマットと申請金額の算出目安」を参照して下さい。

成果物:

- ・申請した書面に明記した整備目標を達成すること
- ・別紙に定めた様式にて、標本情報を整備し、自館のホームページおよび全国科学系博物館情報ネットワーク推進協議会、NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークに公開用電子データを提供すること（ただし著作権は各館が保有します）
- ・作業の概要およびコレクションの特徴、整備数、注記などを報告書として取りまとめること（A4で4ページ程度）
- ・会計報告書（文部科学省科学研究費の予算執行要綱、あるいは各地方自治体で定められた予算執行の方式に従うこと）
- ・外部からの依頼に応じて、データ公開した標本の貸し出しを行うこと（貸し出し方法は各館の規定に基づく）

申請フォーマットと申請金額の算出目安（案）

- ・申請フォーマットについては、別紙 4 を参照して下さい。
- ・申請金額については以下の積算額を目安として申請して下さい。
標本データ 1 件につき平均 50 円とし、データ件数を乗じて下さい。
例) データ単価を平均 50 円とし、20,000 件のデータを提供する場合
$$50 \text{ 円} \times 20,000 \text{ 件} = 1,000,000 \text{ 円 (申請の目安額)}$$
 - ・この金額の前後 10% の範囲内にて、予算の用途等を設定して申請下さい。
 - ・既に電子化されたものと新たに電子化されるものでは、単価が異なりますが、申請にあたっては、押しなべて平均 50 円を目安として申請額を設定してください

締め切り

- ・2005 年 11 月 25 日（消印有効）
郵送もしくは電子メールにて送付のこと（到着後、確認の返事をさせていただきます）

手続きの流れ（案）

- ・ 10月24日 事業の説明と公募の開始
- ・ 11月25日 公募の締め切り
- ・ 11月下旬 事業採択の通知 及び
～ 12月上旬 各館との事務契約の完了と事業費の支払い
- ・ 1月中 第3回研究会の開催（意見調整）
- ・ 3月15日 標本データおよび報告書（会計報告を含む）の提出

ヘルプデスクの設置

- ・ データ整理等でお困りの場合には、当NPO法人にてサポートいたします。内容に応じて、専門家の派遣やセミナー等の実施をさせていただきます。相談は以下の窓口にて、原則として電子メールで受け付けます。

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク 標本データヘルプデスク
naturemuseum@mus-nh.city.osaka.jp

その他

- ・ 審査は、提出された書類に基づいて、外部審査員を含む複数名により行います。
- ・ 契約については、事業が採択された後に、別途通達します。

自然史系博物館における収蔵品データ整備に関する整備様式について（案） （未定稿・以下の部分については今後確定して、10月24日に案を提出予定）

1．ファイルフォーマット

- ・Windows or Machintosh の種別は問わないが、タブ区切りテキストファイルとして整備し、半角カタカナを利用しないこと。
- ・数字については、半角英数で入力すること
- ・1行目には、フィールド名を入力すること

2．入力するフィールド（データベース項目）

- ・標本番号、タイプの種別、種名（和名・学名）、科名（和名・学名）、採集日、採集者、採集場所、同定者を必須項目とし、必要に応じてフィールドを追加すること。
- ・位置情報や関連画像ファイルについても整備することを推奨する

3．学名の表記

- ・分野に限らず、分類システムとして採用した図鑑等を報告書に明記すること。採用する分類システムの種別については、特に定めのないものとする。

4．位置情報の記述

- ・緯度経度（十進経緯度が望ましい）、3次メッシュコード、地点精度を入力しておくこと
- ・大字名のほかに、具体的な地名を指す名称（橋や池、峠等）は可能な限り明記すること

5．採集者等の記述に伴う個人情報への配慮

- ・個人情報の保護観点に従って、場合によっては採集者や同定者を省略しても良い。
- ・省力する際には、「非公開」と明記するか、コード番号を付すといった方法が挙げられる。

6．日付の記述様式

いわゆる日付型のフォームで入力するのではなく、テキスト形式にて、西暦、月、日の順に区切り文字（「,」、「/」、「.」、「:」等、例：1985/10/1などの形式）を入力すること。月や日が不明の場合は、「不明」と明記すること。また、「1980年台」、「1985年頃」といった記述も認める。

7．写真等のマルチメディアファイルがある場合

- ・画像ファイルは1つのフォルダーにまとめて保管し、マルチメディアファイルへのリンクとなる相対パスを記すこと

8．その他

- ・入力項目として推奨するものについては、別途ガイドラインを作成して配布する。
- ・今年度は、試行的に整備マニュアルを作成するが、次年度以降はGBIFのフォーマットへの変換効率等の実験結果を踏まえて、データ整備マニュアルを作成する。
- ・各館からの課題報告事項に応じて、中間支援ソフトの開発等を行う。

科学系博物館情報ネットワーク推進事業

(実施：国立科学博物館)

- サイエンスミュージアムネット S-net -

一般利用者向けサービス

Web情報収集検索システム

全国の科学系博物館のWeb情報を自動収集し提供する。一般利用者は、キーワード入力または一覧から検索するだけで、容易に信頼度の高い科学系博物館情報の取得が可能となった。

また、既存のWebページを自動収集するため博物館側の負担を縮減するだけでなく、各館のアーカイブス・教育資源の流通を促進することとなった。平成17年8月より稼動し、現在、162館が参加している。

研究者向けサービス（第二次開発）

1. 日本語自然史標本検索・GBIF対応検索システム

各館の自然史標本データを標準フォーマットに変換するための変換ソフトを配布し、変換データをネットワークより収集し、参加館の全標本データを横断的に検索するシステムを平成17年度中に開発し公開する。

さらに、収集したデータを活用しGBIF(地球規模生物多様性情報機構)に対応したポータルサイトを構築し、全世界に我が国の標本情報を公開するとともに、全世界で約6500万件流通しているGBIFデータを横断的に検索することを可能とする。

2. 科学技術史系対応検索システム

各博物館が所有している国内の科学技術史系標本を横断的に検索することを目的とする。今後、データフォーマット等の検討等実現に向けた検討を開始する。

3. 学芸員・研究者情報提供システム

各博物館の学芸員・研究者・職員の所属・専門分野の情報提供を行う。

2005年度 自然史系博物館における収蔵品データ整備 企画書(申請用紙)

<p>申請する タイトル名</p>		
<p>申請者(所属)</p> <p>複数名で申請する場合は、代表者等の役割を明記して下さい</p>		<p>所属長の許諾</p> <p>この申請内容について事業を受託することを許諾します。</p> <p style="text-align: right;">印</p>
<p>整備する内容</p> <p>*簡潔に記すこと</p>		
<p>整備の必要性と特徴</p> <p>*自由にセールスポイントをアピールして下さい</p>		
<p>予算見積り額(予定)</p> <p>*直接人件費の日単価は10千円以上とする</p>		

別途、申請に際してアピールするものがありましたら添付いただいで結構です

サンプル 2005 年度自然史系博物館における収蔵品データ整備 企画書（申請用紙）

申請する タイトル名	兵庫県における丹波太郎収集水生昆虫コレクションの整備	
申請者（所属） 複数名で申請する場合は、代表者等の役割を明記して下さい	三田一郎（兵庫県立人と自然の博物館研究員、代表者） 神戸港二（神戸大学農学部教授、トビケラ目分類の専門家） 豊岡三郎（豊岡高等学校教諭、カワゲラ目分類の専門家）	所属長の許諾 この申請内容について事業を受託することを許諾します。 印
整備点数と内容および成果物 *簡潔に記すこと	<p>【整備する標本点数】 10000点とする。ただし、これらのうち300点については、精細な写真を添付する（300dpi, JPEG）。</p> <p>【内容】 兵庫県内の河川上流域（円山川、岸田川、千種川）において、1950年代から2000年にかけて収集してきた水生昆虫の各分類群（主にカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目）に関する液浸標本を対象として整備する。一部の標本については、分類体系の変更に基づいて、共同申請者である 氏と 氏にて再同定を行います。また、トビケラ目については、専門家である東京四郎教授を招聘して再鑑定いたします。 提供するデータのうち7000点については、既に電子化が完了しており、若干の修正だけで対応可能であるが、既存のラベルデータ（紙媒体）のタイプ入力については外部委託とします。 整備したデータは、所定の様式で提出する以外に、自館のホームページにて公開するほか、資料目録としての館での出版を予定しています。</p>	
整備の必要性と特徴 *自由にセールスポイントをアピールしてください	<p>整備する標本の中には、昆虫類のタイプ標本が10点含まれる。また、未記載の種類についても、少なくとも5点以上が含まれ、属までの情報を掲載して、分類学研究への利活用を促進する。また、年代が古い標本が含まれているので、過去の自然環境を再現する上でも貴重な資料となるかと思えます。</p> <p>また、2年後の企画展示「兵庫県の水生昆虫展」においても、これらの標本を活用することを予定しております。</p>	
予算見積り額（予定） *直接人件費の日単価は10千円以上とする	<p>(1) 直接人件費 265,000 円 専門家報償費 @10,000 円×1人×4日 アルバイト雇用 225,000 円（@7500 円×30日）</p> <p>(2) 直接経費 245,000 円 旅費交通費（45,000 円） 通信連絡費（10,000 円） 消耗品費（80,000 円） 委託費（100,000 円）</p> <p style="text-align: right;">合計 510,000 円（税込み）</p>	

別途、申請に際してアピールするものがありましたら添付いただいで結構です